

県都グランドデザイン

令和4年10月

県都にぎわい創生協議会

(福井商工会議所・福井県・福井市)

1 趣 旨

(1) 策定の趣旨

福井駅周辺は福井の玄関口であり、交通結節点となる福井駅を中心に商業・行政・業務の各機能に加え、歴史文化遺産、自然環境がコンパクトに集積されたポテンシャルの高いエリアであるが、都市機能の郊外分散化などにより、その実力が十分に発揮されていない。

こうした中、福井県は、2024年春の北陸新幹線福井・敦賀開業をはじめ、中部縦貫自動車道の全線開通など高速交通ネットワークの整備が大きく進展する“100年に一度のチャンス”を迎えており、この機をとらえ、県都にふさわしい都市機能を再構築することにより、観光はもとより、県民・市民のくらしやしごとの向上につなげていく必要がある。

これまで、平成25年3月に策定した「県都デザイン戦略」をもとに、県と市が協力して県都の基盤整備を進めてきたところであるが、このチャンスを最大限に活かすためには、民間が主体となってまちづくりに継続的に参画する「エリアマネジメント」の視点を取り入れ、今後の構想づくりと実施体制の整備を進めていく必要がある。

このため、経済界と行政が一体となって、県都の将来像を構想する「県都グランドデザイン」を策定する。

(2) 目的

- ・まちなかに人を惹きつける場をつくり、人々が多様な目的を持って集い、活動・交流し、新たな文化や楽しみを生み出していく。
- ・まちなかに持続的ににぎわいを生みだし、郊外にも波及させていく。

(3) 目標年次と対象エリア

目標年次：2040年（「福井県長期ビジョン」（令和2年策定）の目標年次）

対象エリア：下図のとおり

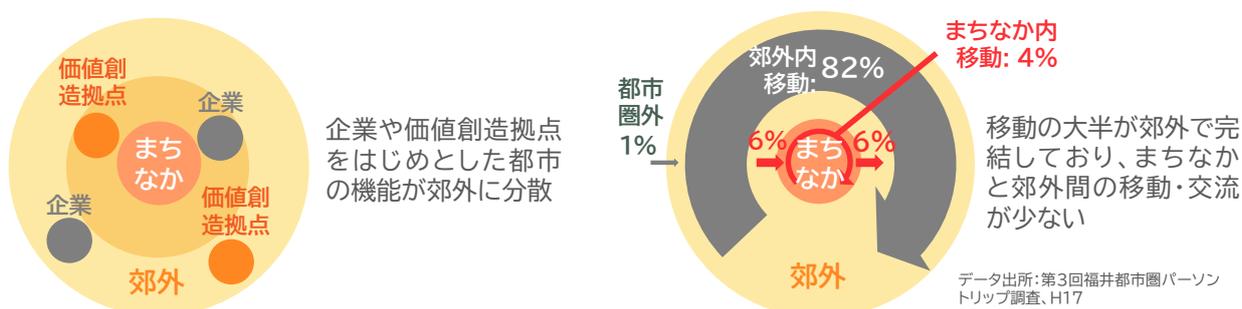


対象エリア

2 現状と課題

福井においては、郊外に大規模な商業施設や文化公共施設、企業、価値創造拠点¹が分散立地していることから、郊外に住み、働き、買い物をするといった、郊外で完結するライフスタイルが定着している。

福井都市圏パーソントリップ調査によると、郊外を出発地とした移動のうち、まちなかを目的地とするものが1割未満であり、大半が郊外内での移動に終始している。また、まちなかを発地とした移動についても、まちなかよりも郊外を目的地とした移動が多い状況となっている。



福井県と福井市は、平成25年3月に「県都デザイン戦略」を共同で策定し、これまで、福井駅西口の再開発ビル「ハピリン」や福井駅東西広場の整備、福井城山里口御門の復元や御座所等の遺構を活かした中央公園の再整備、福井駅と城址をつなぐ市道県庁線の整備など、福井駅周辺の都市基盤を整えてきた。

この結果、中央公園でのイベント開催や市道県庁線の歩行者空間におけるキッチンカーの出店など、公共空間を活用してにぎわいを創出する取組みが行われるようになってきている。

こうした中、2024年春の北陸新幹線開業を控え、福井駅西口においては、複数の再開発事業が進められるなど、まちが大きく変わろうとしている。この機をとらえ、県都の持つ価値を改めて見直し、その魅力に磨きをかけることにより、さらなる投資と人材を呼び込んでいくことが必要である。



福井駅西口の屋根付き広場「ハピテラス」



中央公園でのイベント



市道県庁線（「ふくみち」の実施）

¹ 研究機関や産業支援機関、コワーキングスペースなど、これまでにない新しいアイデアや製品、知的財産、ビジネスモデルなどの新しい価値を生み出すことを目的とした機関や場所。

3 将来像

誰もが主役に！楽しさあふれる県都 —あなたからはじまる、福井まちなか。—

福井の玄関口として、交通ネットワークの中心に位置する福井駅周辺に、厚みのある歴史、豊かな自然、商業施設や食、文化・スポーツ拠点など、さまざまな魅力を重ねることにより、さらに多くの人を惹きつけ目的地となるまちなかを形成する。

多様な人が集い、交流し、自ら新たな価値やにぎわいを生み出し、まちの魅力を高め、人が人を呼ぶ「楽しさあふれる県都」を目指す。



4 基本方針と戦略

(1) 基本方針

県都リノベーション

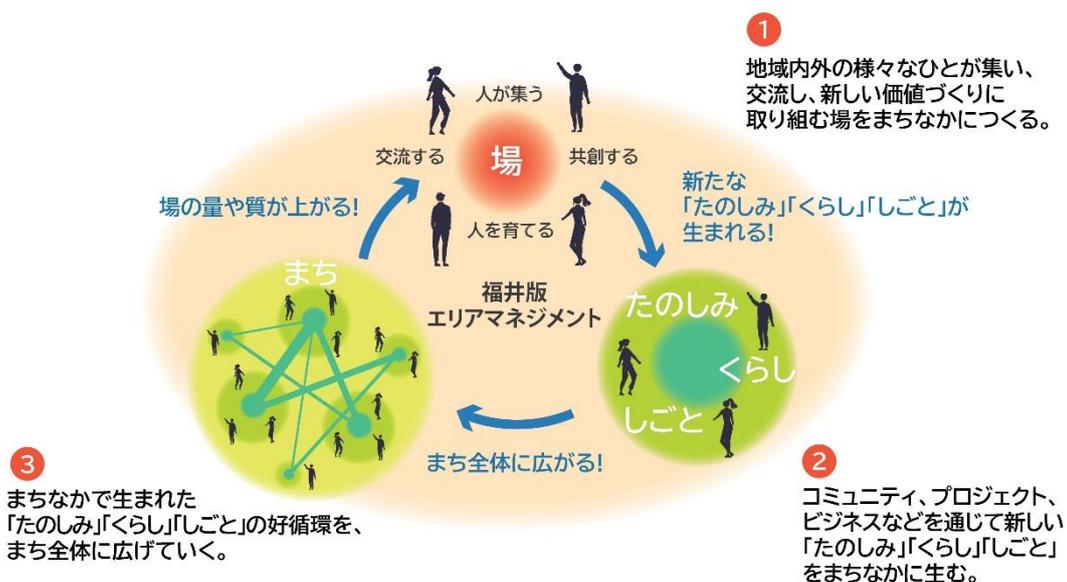
分散した都市機能をまちなかに再配置し、エリア価値を最大化する
～まちなかに「つくる」、まちなかに「あつめる」、まちなかに「のこす」～

都市機能が郊外に分散している現状を踏まえ、今後、新たな施設の配置や施設の建替えの検討の際には、まちなかへの誘導を進める。

県都が積み重ねてきた歴史やまちなかの自然環境、充実した都市基盤などの価値を活かしつつ、新たな機能を付加する「県都リノベーション」により、投資と人材を呼び込み、エリアの価値を最大化していく。

(2) 戦略

「さまざまな世代や立場の人が混ざり合う場」福井・まちなか。
ここから、新しい「たのしみ」「くらし」「しごと」を共に創り出し、
まち全体へ広げていく。



～「点」から「線」へ、「線」から「面」へ～

5 グランドデザインの方向性と行動計画

将来像の実現に向けて、3つの領域と9つの目標、行動計画を設定する。

将来像

誰もが主役に！楽しさあふれる県都
—あなたからはじまる、福井まちなか。—

基本方針

県都リノベーション
分散した都市機能をまちなかに再配置し、エリア価値を最大化
～まちなかに「つくる」、まちなかに「あつめる」、まちなかに「のこす」～

戦略

「さまざまな世代や立場の人が混ざり合う場」福井・まちなか。
ここから、新しい「たのしみ」「くらし」「しごと」を共に創り出し、
まち全体へ広げていく。

3つの領域・9つの目標 (2040年までの目標)

“たのしみ”をつくる

多くの人々が楽しみを求めて
まちなかに集い、活動・交流し、
みずからもプレーヤーとなっ
て新たな楽しみを生み出す場
を形成する。

目標1 歴史や自然を活かした歩き
たくなるまちをつくる
福井城址や北の庄城址などの歴史拠点の
魅力をさらに高めるとともに、足羽山や足
羽川など、まちの自然を最大限に活かす環
境をつくり、まちなか周遊を拡大する。

目標2 ワクワクとドキドキのエンタ
メ空間をつくる
まちなかの公共空間を活用したイベント
開催や恐竜をテーマとしたコンテンツ整
備などにより、大人から子どもまで楽し
めるまちなかをつくる。

目標3 文化・芸術やスポーツを楽し
めるまちをつくる
まちなかの新たな機能として、文化ホー
ルやアリーナなどを整備し、まちなかを
文化・芸術やスポーツを楽しむ拠点にす
る。

“くらし”をつくる

様々な世代がまちなかに暮ら
し、魅力ある食や買い物
を楽しみ、新たなコミュニティが
生まれる場を形成する。

目標4 多様な交流の場と住まいを
つくる
幅広い世代のニーズに合う住まいと、
様々なコミュニティが生まれる居住環境
をつくる。

目標5 魅力ある食文化と商業エリ
アをつくる
福井ならではの食が楽しめる店舗を増
やし、通り・エリアごとに特徴のある商業
エリアを形成する。

目標6 誰もが移動しやすい交通環
境をつくる
新たなモビリティサービスの導入により、
まちなかへの来訪やまちなかでの移動
を快適にする。

“しごと”をつくる

都市機能がコンパクトに集積
し多様な人材が集まるまちな
かで、学び交流し、新たなビジ
ネスを創出する場を形成する。

目標7 しごとで活躍する学びの場を
つくる
多様な講座や実践を通して幅広い世代
が学び交流し、仕事につながる機会をつ
くる。

目標8 プロジェクトを共創する場
をつくる
多様な人材が出会い共創する機会を拡
大し、新たなプロジェクトやビジネスアイ
デアを生み出す。

目標9 新たなビジネスの場をつく
る
まちなかでのオフィス環境と起業にチャ
レンジできる仕組みを充実し、新たなビ
ジネスを創出する。

行動計画 (具体的プロジェクト) ※一部を掲載

恐竜モニュメント等の設置

食文化の発信拠点(フードホール)の設置

ふくまち大学の設置

多目的アリーナの整備

食文化の人材育成拠点の設置

ふくいまちなかイノベーションラボの設置

中央大通りのにぎわい創出(ふくみち)

エリア・リノベーションの推進

健康・スポーツラボの設置

外資系ホテルの建設

福井城址と北の庄城址の磨きあげ

足羽川周辺のにぎわい醸成



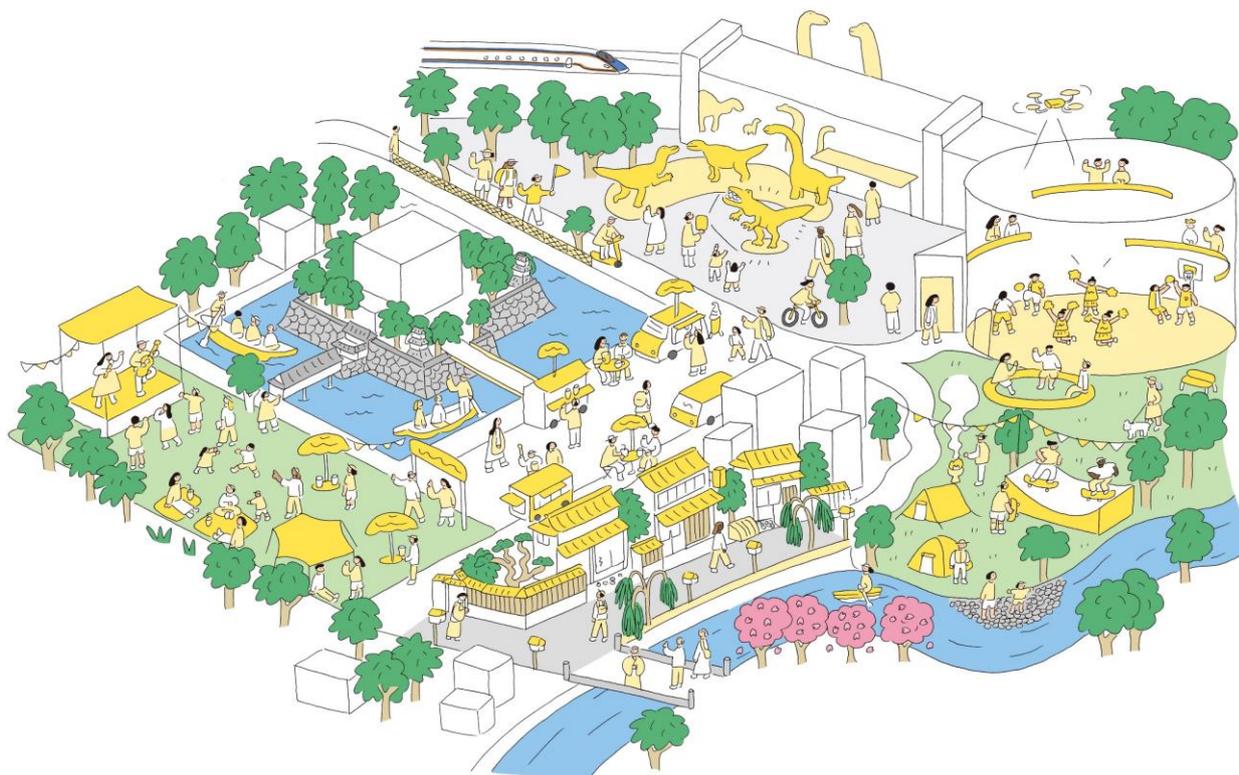
- 福井駅エリア
 県内外からの交通および交流拠点となる福井のゲートウェイ
- 中央1丁目エリア
 特色ある店舗、オフィス、食文化、まちなか居住などが複合するエリア
- 浜町エリア
 洗練された飲食店が立ち並ぶ、風情のある街
- 片町エリア
 飲食店やオフィスなどが集まる、多様な人々が交流する街
- 大手エリア
 官公庁やオフィスが集積するビジネスゾーン
- 福井城址エリア
 福井の歴史と文化を感じる、人々の憩いのエリア
- 東公園エリア
 スポーツ・文化・エンターテインメントを楽しむ新にぎわいゾーン
- 足羽川
 多様な楽しみ方ができる親水アクティブパーク
- 足羽山・愛宕坂
 歴史と文化に出会えるまちの里山
- 歴史と自然のみち
 まちの歴史資産と自然をつなぐ散策路

I “たのしみ”をつくる

多くの人々が楽しみを求めてまちなかに集い、活動・交流し、みずからもプレーヤーとなって新たな楽しみを生み出す場を形成する。

[将来イメージ]

- ・ 櫓などの復元が進む福井城址とその周辺エリアでは、歴史を感じながら散策し、足羽川では、まちなかキャンプや川床、親水空間などで遊びながら、大人から子どもまで一日楽しく過ごしている。
- ・ 浜町・愛宕坂界限では、灯の回廊や足羽川のライトアップされた自然空間を散策し、洗練された飲食店で福井の食を楽しんでいる。
- ・ 観光客がまちなかのいたるところにある恐竜モニュメントを巡り、恐竜列車などのエンタメ交通を楽しみながら観光地に向かっている。また、中央公園などの公共空間では、様々な音楽イベントなどの開催やキッチンカー・オープンカフェの出店により、にぎわっている。
- ・ 多目的アリーナにプロスポーツを観戦する人や自ら運動する人が多く訪れている。また、文化ホールでは演劇やコンサートが開催され、観戦・鑑賞の後に、まちなかで福井の食を楽しんでいる。



目標1

歴史や自然を活かした歩きたくなるまちをつくる

福井城址や北の庄城址などの歴史拠点の魅力をさらに高めるとともに、足羽山や足羽川など、まちの自然を最大限に活かす環境をつくり、まちなか周遊を拡大する。

[主なプロジェクト]

○福井城址の魅力向上

歴史的価値が極めて高く、「県都のシンボル」となり得る大切な歴史資産である福井城址を、「県民の城」として気運の醸成を図りながら、「歴史に触れ、学びを深める空間」、「人が集う、開かれた憩いの空間」として活用する。

〔福井城址〕

- ・福井城址の歴史的価値を知り、身近に感じられるよう、石垣等の常設のライトアップや、プロジェクションマッピング、お堀での遊覧船運航などを実施する。[短期～]
- ・県民の気運の高まりのもと、新しい文化・歴史のシンボルとして、坤櫓や城址西側土塀を史実に基づき復元する。[短期～中期]
- ・福井城址の魅力をさらに高めるため、巽櫓等の復元を検討する。[中期～長期]
- ・福井城復元VRアプリの機能の拡充や、歴史の専門家による解説付きまち歩きを開催することにより、福井城の往時の姿を学ぶ機会をつくる。[短期～]
- ・城址周辺の歩行者空間を拡充し、案内表示を充実させることにより、歴史遺産の周遊を促進する。[短期～中期]
- ・城址周辺の用地を確保し、城址の視点場として広場等を整備する。[短期～]



櫓や土塀の復元イメージ



石垣のライトアップ



福井城復元 VR アプリの活用

コラム 福井城の天守と櫓

福井藩の初代藩主結城秀康は、慶長6年(1601)に越前に入り、北庄城の石垣を活用しつつ、北庄城よりも北に本丸を築きました。寛文9年(1669)に大火により本丸の建物が焼失し、その後、天守の再建はされませんでした。この際、坤櫓と巽櫓は2層から3層に変更され、福井城を象徴する建物として、天守の代役を果たしていたとされています。



坤櫓 (絵図 福井温故帖 越葵文庫)
(福井市立郷土歴史博物館保管)

※歴史に基づいたまちづくりを進めるうえでの参考として、プロジェクトや当該エリアに関連したエピソードを紹介します。

〔中央公園など城址周辺〕

- ・城址周辺の緑化を促進し、歩いて心地の良い散策ルート of 環境を整えるとともに、木陰となる場所にタープやベンチなどを配置し、気軽に休憩できるスペースを設置する。〔短期〕
- ・城址の景観に調和するカフェ等を設置することにより、休憩しながら歴史を感じることでできる環境を整える。〔短期～〕
- ・野外フェス等のイベントやアートプロジェクト等の文化的活動を実施することにより、人が集い、楽しむ空間を形成する。〔短期～〕



中央公園の利活用イメージ



中央公園での野外映画鑑賞

○北の庄城址の魅力向上

「福井のはじまりの地」である北の庄城址を、戦国一の美女と言われるお市の方方にちなみ「美の聖地」にすることにより、新たなファン層を惹きつける歴史スポットにする。

- ・北の庄城址資料館において、柴田勝家とお市の方や周辺歴史スポットに関する映像の放映や歴史案内ボランティアによる解説を行うことにより、展示案内機能を強化する。〔短期〕
- ・お市の方にちなみ、「美」をテーマにしたイベントを定期的に開催するとともに、関連商品の開発・販売を行う。〔短期～〕
- ・足羽川堤防の桜並木を「お市桜」としてブランド化し、北の庄城址でのイベント等と連携することにより、桜のシーズンにおける北の庄城址界隈の周遊を促進する。〔短期～〕



柴田神社



お市の方と3姉妹の銅像



北の庄城址資料館

コラム 福井のはじまりの地

天正3年(1575)に柴田勝家は織田信長から越前八郡を与えられ、北庄に城を築き始めました。北庄を訪れた宣教師ルイス・フロイスは、町が安土の2倍もあることや、城が大変立派で大きな工事をしている事などを記録に残しており、北庄城とその城下町がいかに雄大な規模を誇っていたかがわかります。

関ヶ原の戦いの後に入城した結城秀康は北庄城を取り込む形で福井城を築き、現在に至るまで、北の庄城址・福井城址を含む一帯は福井の中心地となっています。



柴田勝家像